

長期連休前後のパフォーマンス

今年のGWは10連休となる予定だ。こうした長期の連休期間の前後など特別な時期には、株価も特別な動きをしやすい。そこで、本稿では過去の株式市況を分析し、その傾向を探る。本稿での分析の結果、10連休のような長期にわたる連休の直前・直後は投資タイミングとしてはあまり良くないことが判明した。

(1). GW前後の株価騰落率

今年のGWは10連休となる予定だ。こうした長期の連休期間の前後など特別な時期には、株価も特別な動きをしやすい。本稿では1980年以降の日経平均株価データを利用し、過去の連休期間の直前・直後の株価騰落率を分析した。

始めに、GW前の株価パフォーマンス実績を見るために、図1を作成した。左図では、GWの連休開始が4月のケースと5月のケースを想定し、スタート月による影響を観察した。なお、本稿では連休とは土日を含めて3連休以上のケースを指す。こちらを見ると、4月からGWの連休がスタートする際には株価は連休直前の株価は下落しやすいものの、5月から連休がスタートする際には、連休前の株価は大きく上昇しやすい。4月から連休が始まる際のパフォーマンスが不振な点は気になるが、GWであっても4月から連休となる年は少ないため、十分なデータ数が揃っていない可能性もある。この点も考慮して、右図では4月および5月の連休開始前日の株価騰落率を取ることとした。右図をみると、GWの時期の連休開始前は、4月5月のそれ以外の日に比べて、非常に高い株価パフォーマンスとなっている。

次に、図2では連休の直前・直後のパフォーマンスを曜日別に分類した。左図が連休前のパフォーマンスで、右図が連休後のパフォーマンスである。連休後のパフォーマンスは比較的安定しており、曜日の影響を受けていないのに対して、連休前のパフォーマンスは曜日によって変動が大きい。この点は、今後さらなる分析が必要な部分だろう。

図1. 連休前のパフォーマンス

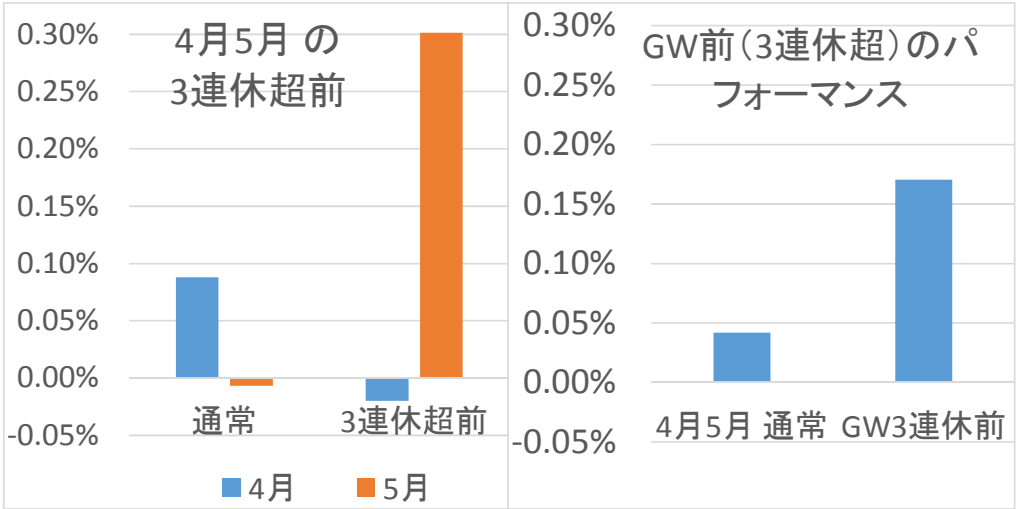
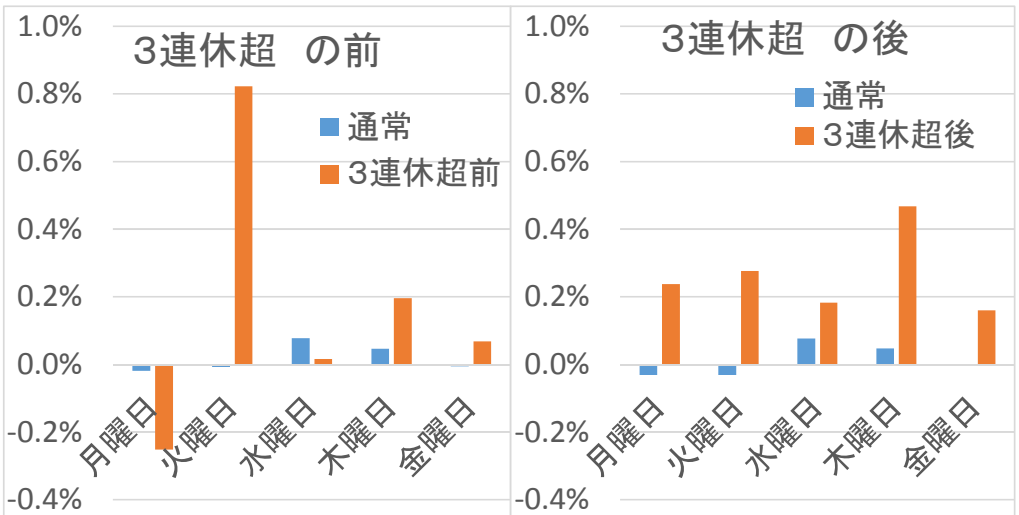


図2. 連休前後の曜日別パフォーマンス

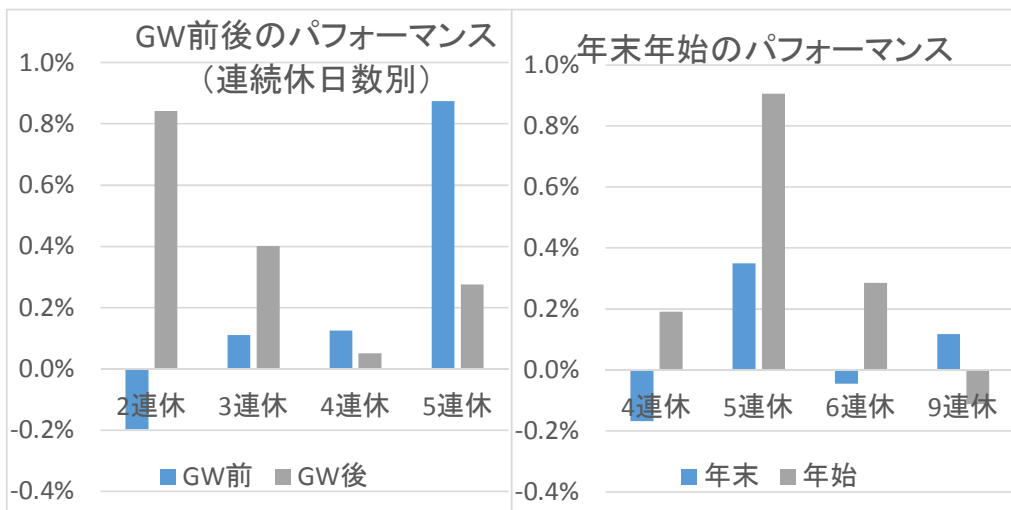


(2). 連休期間の長短とその前後の株価騰落率

次に、祝日による連休期間の長短は、その前後の株価パフォーマンスに影響を与えるかどうか検討する。特に、今年のように10連休という長期の連休が予定されている場合には、連休の長短による影響がどの程度あるのかという点を把握しておくことは有益である。

図3には、連休期間の長さとその直前・直後の時期における株価騰落率を掲載した。左図が過去のGWにおける連休期間の長さ、その前後の時期の株価騰落率のまとめである。こちらを見ると、GW前は連休日数が長くなれば長くなるほど、株価騰落率が高くなる一方で、GW後の株価騰落率については、連休日数が長いほどパフォーマンスは低下する傾向がみられる。

図3. 連休の長短とその前後の株価騰落率



ここで1つ考慮すべきなのは、1980年以降のGW期間には、6連休以上の長期にわたる連休日数が存在しないことである。そこで、さらに長期の連休日数の影響を観察するために年末年始の休暇も見てみることにする。右図は、年末年始の連休について、連休日数別に連休前・連休後のパフォーマンスを集計した。過去の年末年始には、最大9連休まで存在している。図3を見ると、連休前後の株

株価パフォーマンスは、5連休のケースで最大となり、それより長期であっても短期であってもパフォーマンスは劣る。過去最大の連休日数である9連休の際には、連休前にはプラスの騰落率は維持したものの、連休後の株価は下落した。

(3). まとめと考察

本稿では、長期連休期間の直前と直後における株価騰落率をGW期間および年末年始の休暇期間を対象として、1980年以降の日経平均株価について分析した。この結果、いくつかの事が明らかとなった。

まず、月別に見ると4月からGWの連休がスタートする際には株価は下落しやすいものの、5月から連休がスタートする際には、連休前の株価は大きく上昇しやすい。そして、GW期間全体で見ると、連休前の株価は上昇傾向を示した。

次に、曜日別に見ると、連休後のパフォーマンスが比較的安定しており、曜日の影響を受けていないのに対して、連休前のパフォーマンスは曜日による変動が大きい。ただ、評価対象期間が限られていることを考慮すると、曜日別の分析を行うに足る十分なデータ数が得られていない可能性はある。

最後に、連休継続日数と株価騰落率の関係については、GWにおける連休日数が長くなれば長くなるほど、連休直前の株価騰落率は高くなる。一方で、GW後の株価騰落率については、連休日数が長いほど低下する。ただし、今回のGWのように10連休という長期の連休は初めての経験であることを考えると、より長期の連休が存在する年末年始の長期連休の際のデータを援用するほうが有益かもしれない。こちらを見ると、連休前後の株価パフォーマンスは、5連休のケースで最大となり、それより長期であっても短期であってもパフォーマンスは劣る。

以上の傾向を見た結果、今回のGW10連休は、株式市況に以下のような影響を与えそうだ。まず、連休開始時期は4月であるため、連休前の株価にマイナスの影響となる。次に連休継続日数について言えば、これほどの長期間の連休は直前株価にも直後の株価にもマイナスの影響を与える。これらをまとめると、今年のGW前後は、株式への投資環境はあまり割が良くないものと想定される。